

令和4年度 第2回 長野市学校給食センター等運営審議会 議事概要

期 日：令和5年3月13日（金）

開会時刻：午後2時30分

閉会時刻：午後3時15分

会 場：長野市第四学校給食センター（大字村山）

出席者：委員17名（欠席者5名）、事務局22名

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 諮 問
- 4 審 議

(1) 令和5年度給食費について

委 員： 主食の価格について、米飯の価格よりパンの価格のほうが安くなっている。給食費を抑えるという点で、価格が安い主食の提供回数を増やすことは効果があると思うが、そのようなことは検討しているか。

事務局： 給食センターにおける週当たりの主食の提供回数は、米飯が3回・パンが1.5回・ソフト麺が0.5回としている。現時点では、価格によって提供回数を変更することは検討していない。

委 員： 第三子に限る等、条件付きのものも含めて給食費の無償化は検討しているか。少子化対策として検討していただけるとありがたい。

事務局： 本市においては、児童・生徒約27,000人分の給食を年間約200日提供しており、現行の給食費の平均価格303円であることから、給食費を無償化すると年間16億5千万円程度の財源が必要となり、その確保が難しい。条件付きのものも含めて、給食費の無償化に対する国や県の動向を注視しながら、研究している。

委 員： 価格の動向に着目すると、米飯の価格のほうが、パンやソフト麺の価格に比べて、安価であり変動も緩やかである。給食費の観点や、米農家の支援・日本の食文化継承の観点からも、主食を完全米飯化することが効果的だと考える。

また、農林水産省では米の消費拡大の取組を行っており、学校給食において米飯の提供回数を前年度より増やした場合に、増加分について政府備蓄米を無償交付する制度もある。そのような制度を活用すれば給食費も抑えることができると思うが、以上、意見としてお願いする。

委員： 給食費据置きという案はありがたい。価格面での献立の工夫とは、具体的にどのようなものか。

事務局： 献立作成時に魚や野菜の種類を安価なものに変更したり、メロンパン・柿パン等の混ぜパン、炊きこみごはん・赤飯等の混ぜご飯、ジャム・ふりかけ・デザート等の添加物の回数を減らしたりすることが挙げられる。変更等により、栄養価が変わらないよう工夫している。

【意見の取りまとめ】

「令和5年度給食費は、据置きとする」との取りまとめがなされ、審議会の答申として決定された。答申書の文案については清水会長に一任された。

(2) その他

委員： 前回の審議会において、『黙食』について、「長野市教育委員会としては、文科省と同じく黙食という言葉は使っていないが、感染防止の観点から、大声での会話を控えることや、机を向かい合わせにして食べないこと等、給食時間中の感染拡大防止に努めるよう依頼している。」とのことであった。学級担任に確認したところ、「教育委員会から黙食と言われているものと思った。」という返事をもらい、教育委員会と学校の連携が取れていないのではないかと感じた。子どもに指導するのは学級担任であるので、そこまでしっかりと伝達されるようにしていただきたい。

また、話さないということは解消されたが、一方向を向いて喫食すること等、コロナ以前の楽しい給食の様子には戻っていない。マスクの着用について変更があったように、給食についても、コロナ以前に戻ってもらいたいと感じている。

事務局： 保護者の立場からすると、学校と教育委員会の連携が取れていないと感じたことは、不信感につながったと思う。今後、気を付けたい。

学校の給食における感染症対策については、国が示した「学校の新しい生活様式」やガイドライン等に従っているが、学校の新年度開始や5月8日からの新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの5類への移行に合わせて、生活様式やガイドラインの変更があると見込んでいる。変更があり次第、市教育委員会としての方針を学校に示す。

委員： 学校給食でコオロギパウダーを使用した給食が提供されたというニュースを見た。昆虫食等子どもたちに馴染みのない食材を新たに給食に使用する場合は、メリット・デメリットを精査して提供する・しないの判断をしていただきたい。また、子どもたちは自身で食べる・食べないの判断ができない場合があるので、強制的に食べさせることがないようにしていただきたい。

事務局： 市の栄養教諭・栄養職員の中では、給食で昆虫食を取り入れるということは話題に挙がっていない。仮に馴染みのない食材を新たに給食に使

用することがあれば、保護者や児童・生徒に周知をし、理解を得るなど丁寧に進めることが大切だと思っている。

5 御礼のあいさつ

6 閉 会